

精華町地球温暖化対策実行計画 11月6日開催環境推進委員会での委員意見

No.	意見のある箇所	委員名	意見	対応
1	素案全体	⑦岩本登志男	具体案がなく現在の経済状況を考えてこのような方向性で施策が推進できるか疑問である。	社会の大きな流れとして、脱炭素の取り組みが求められているところがある。具体の導入策がないという指摘であるが、今後、国等から色々と施策が出てくると想定しており、その際には、情報提供なり充実させるよう想定している。
2	アンケート結果	⑦岩本登志男	アンケート回収率が低い。この結果をどのように評価しているのか。	統計的には、1000通送付して3割程度の回答があれば方向性が見れるというようである。事業者は、430社くらいに送付したが、結果として、回収率が低かった。小規模な事業所が多く、取り組みまでは至らないところかと思う。
4	重点プロジェクト	③井澤委員	地球温暖化対策に関する今後の委員会の役割として、プラスチック削減の観点からはごみ問題に取り組む団体との連携など、また、農業についても勉強会を開催するなど、働きかけを重視することなど考えることが必要である。	進行管理の章で、今後の推進体制について記載していますが、すぐに体制を整備することは難しいこともあり、取り組みの詳細については、今後検討することを想定しています。
3	重点プロジェクト	④山本委員	営農型ソーラー発電について、費用対効果があるのか、償却期間がどの程度であるのかが重要。	庁内で検討した結果、町内での営農型ソーラー発電の展開についてはかなり難しいということから、今回は取り上げないこととしました
5	重点プロジェクト	③井澤委員	休耕地にソーラーを付けるという話は反対である。まずは抜本的な農地改革が必要だろう。農業の将来像があり、農業振興のために太陽光発電がどのように役立つのかを考える必要がある。	同上
6	第5章 脱炭素に向けた地球温暖化対策の取組	⑤寺本委員	第5章の施策が重要だがこの部分の検討状況はどこまですすんでいるのか。	5章については、再度検討し、全面的に修正しています。
7	CO2把握方法	信田委員	CO2排出量の推計方法はどのようなものか。運輸部門には家庭の分も入るのか、運輸部門の推計はどうなっているのか。実態把握が困難としても、ガソリンスタンド等の協力を得て確認することなどは出来ないのか。	家庭で使用されている自家用車のCO2排出量は、運輸部門の排出量に含まれます。CO2の推計は、環境省のデータベースを使用しています。独自の方法を採用することも可能であるが、事務量が大幅に増えること、事業所の負担も大きく、協力が低くなることも考えられるため、実施は難しいと判断しました。
8	施策の実現等について	信田委員	CO2削減率を各シナリオの削減量まとめ表(p.36)にも入れないと住民にはわかりづらい。目標の達成のためには住民のライフスタイルや価値観を変えていく必要がある。住民への伝え方を工夫する必要がある。そういった考え方を計画の中に盛り込んでほしい	最終的に採用するシナリオは1つであるため、他のシナリオの結果やまとめ表は削除します。施策の部分は大きく修正し、住民や事業者の取り組むべき行動等についても記載するなど、総合的にライフスタイルや価値観の転換を促すことを重視しています。
9	CO2把握方法	上南木委員長	自動車の排出量について、家庭部門の把握が難しいという点について、例えば、モニター調査など、サンプリング調査のようなことで把握するといったこともできるのではないかと検討してほしい。	毎年の進行管理として実施することは難しいと考えています。ただし、施策の一つとして、実験的に実施するなどの方法を模索することは考えられます。
10	行政の率先行動	⑦岩本登志男	精華町の庁舎での率先行動をお願いしたい	町の役割として、市民、事業者の規範となるべく率先行動を実行することがあると認識しています。町の率先行動についても、施策に記載しているところです。
11	CO2の削減効果について	⑦岩本登志男	脱炭素に繋がる取り組みとその効果などを別冊にまとめることなどはできないか。	一般的な効果については、既に国や各業会団体等から資料が公表されている場合も多数あります。なお、計画では、町内の取り組みについて紹介することを検討しています。
12	委員会の議論内容	⑤寺本委員	委員会各委員から出された意見等について、町がひとつひとつ丁寧に回答する必要があり、そういった内容を住民に共有、発信していく必要があるだろう	委員の意見については、次の審議会等で回答するよう取り組むことを想定しています。
13	全体構成	畑中委員	個別の話がやたら細かく乗っている箇所があり、それが議論しづらい理由だと思う。大きなストーリーが必要ではないか。	4章を大きく修正し、精華町の目指す方向性等についても整理しています。
14	全体構成	畑中委員	現況はすぐ古くなることもあり、資料編の掲載でもよいのではないかと。	2章の現況については、庁内の意見等も踏まえ、今後、取り扱いを検討します。
15	全体構成	畑中委員	36ページ 産業の削減目標マイナス70%になっているが、国に準じるとマイナス30%ではないか？と思う。	目標等については、数字を見直しています。(製造品出荷額を横ばいにして、業務その他に頑張ってもらって調整)あわせてp. 35の表の表頭などを削減後の数字だとわかるように修正しています。
16	全体構成	畑中委員	施策・取組について、PPAのことなど細かい話は書いてあるが、家庭や事業者のマクロな方向性などが十分に整理できていないように見える。	4章の方向性(p41)や将来像(p31)において、家庭や事業所などについてエネルギーの自給を進めるとか、大企業等は再エネを調達するなど、いう大きな方向性について記載するようにしています。